

Your Capital Market Intelligence

IR Japan

株主と企業を結ぶコンサルティング・パートナー



決算説明会資料

2013年3月期第2Q（2012年4月1日～2012年9月30日）

2012年11月5日

株式会社アイ・アール ジャパン（6051）

株式会社アイ・アール ジャパンの承諾なしに、本レポートの全部もしくは一部を引用または複製することを厳重に禁じます。



I . 2013年3月期第2Q業績報告



2013年3月期第2Q 決算ハイライト

当期累計の業績は、前期に比べて増収増益となりました。

(百万円)

	2013/3期 2Q累計(4月－9月)	前期比 (%)	増減	2012/3期 2Q累計(4月－9月) (前期比*)
売上高	1,887	18.7%	297	1,589 (1.8%)
営業利益	543	24.8%	108	435 (▲ 9.5%)
経常利益	541	23.6%	103	438 (▲ 11.9%)
四半期純利益	287	39.3%	80	206 (▲ 19.9%)

* 当社は2011年3月に上場したため、前々期(2011年3月期)は金融商品取引法に基づく四半期財務諸表を作成しておりません。数値は参考情報です。



2013年3月期第2Q 決算の要点

【P/L】

- 証券代行業の開始によって、当社のIR・SRサービス全般のラインナップが強化され、結果、顧客数が順調に増加した。主力のIR・SRコンサルティング及びディスクロージャーコンサルティングの売上高が大幅に増加した結果、売上高は前期比**18.7%増**の1,887百万円を達成。
- 売上高の増加に伴い外注費は増加したものの、その他費用の増加が限定的であったため、営業利益は前期比**24.8%増**の543百万円、経常利益は同**23.6%増**の541百万円、四半期純利益は同**39.3%増**の287百万円となった。
- 証券代行業は、まだ売上の計上には至っていないが、第3四半期での受託開始に向けて万全な準備を進めている。

【B/S】

- 純資産は、利益剰余金が四半期純利益の計上による287百万円増加、配当金の支払いによる75百万円減少等により、2012年3月期末に比べ210百万円増加し、1,485百万円となった。
- 一株当たり純資産は、2012年3月期末の755.43円から16.5%増加し880.30円となった。
- 自己資本比率は一時的な買掛金の増加により2012年3月期末の70.6%に比べ▲1.0ptsの69.6%となったものの、**有利子負債ゼロ**の無借入金体制による強固な財務体質を維持。



2013年3月期第2Q サービス別売上高 実績

(百万円)

	2013/3期 2Q累計(4月-9月) (前期比)	2012/3期 2Q累計(4月-9月) (前期比*)	増減
IR・SRコンサルティング	1,368 (20.4%)	1,136 (▲ 1.1%)	231
ディスクロージャー コンサルティング	410 (19.2%)	344 (10.7%)	66
データベース・その他	108 (▲ 0.2%)	108 (6.1%)	▲ 0

* 当社は2011年3月に上場したため、前々期(2011年3月期)は金融商品取引法に基づく四半期財務諸表を作成しておりません。数値は参考情報です。



2013年3月期第2Q サービス別の要点

【サービス別】 <売上高(前期比)>

●IR・SRコンサルティング <1,368百万円(+20.4%)>

- ✓ 上場企業各社における、株主からの賛成票確保・アクティビストファンド対策等の当社IR・SRコンサルティングサービス（株主判明調査ならびに議決権行使促進活動）のニーズが増大し、新規及び既存顧客の通常案件受注が堅調に推移。
- ✓ 証券代行業の開始によって、IR・SRサービス全般のラインナップが強化され、顧客数が順調に増加。
- ✓ 上場による知名度や信頼性の向上を土台とする、積極的なコンサルタントの増強により、前期に比べ**売上機会ロスを一層軽減**し、顧客の裾野が拡大。

●ディスクロージャーコンサルティング<410百万円(+19.2%)>

- ✓ ツールコンサルティング(Annual Report、株主通信等の企画・作成支援)は、顧客数の増加等により増収。
- ✓ リーガルドキュメンテーション(各種法定開示書類等の英文開示書類の作成や和文資料の英訳)は決算短信、招集通知等の翻訳の受注増加により、増収。

●データベース・その他<108百万円(▲0.2%)>

- ✓ IR活動総合サポートシステム「IR・Pro」の契約が伸び悩み、横ばいとなった。



2013年3月期第2Q 前期比増減要因分析

(百万円)

	2013/3期 2Q累計 (4月-9月)	2012/3期 2Q累計 (4月-9月)	増減	主な要因(利益に対する影響)
売上高	1,887	1,589	297	
営業費用* (売上原価+販管費)	▲1,343	▲1,154	▲189	<ul style="list-style-type: none"> ・人員増加等による人件費の増加(▲44M) ・売上増加に伴う外注費の増加(▲135M) ・その他経費の減少(5M) ・仕掛品の水準による一時的な営業費用の増加(▲14M)
営業利益	543	435	108	
営業外損益	▲1	2	▲4	・当期は為替差損(▲1M)発生
経常利益	541	438	103	
特別損益	-	▲0	0	
税引前四半期利益	541	438	103	
法人税等	▲254	▲232	▲22	<ul style="list-style-type: none"> ・見積実効税率変更による減少(24M) ・税引前四半期純利益の増加(▲48M)
四半期純利益	287	206	80	

* 営業費用：当社では就業時間に応じて人件費等を売上原価及び販管費に各々計上しているため、売上原価及び販管費の計上額が就業時間によって大きく左右されます。そこで、人件費等の各費目について、売上原価及び販管費を合算することで、就業時間の変動に影響を受けない分析を行っております。

** のれん償却：当社はMBOに伴うのれん代を2009/3期から毎年85百万円償却(組織再編税制における適格合併のため)しています。そのため、償却が終了する2014/3期からは**営業費用が前期比85百万円減となるため、同額の利益押し上げ効果が見込まれます。**



Ⅱ. 2013年3月期 事業戦略の概要



IR・SRを取り巻く環境

- 見えない株主(外国人・国内機関投資家)のプレzensの高まり
 - ✓ 多数の英米企業で役員報酬議案が否決
 - ✓ 日本においては、株主提案が急増(本年6月の株主総会における提出企業数28社)
- アクティビストが活発化する兆しがあり、上場企業が事前のリスク対応を積極化
- 株主総会における議案否決リスクの高まり
 - ✓ 反対比率20%以上の企業数が過去最高を更新
- 会社法改正(社外取締役、第三者割当増資規制)
- ライツ・オファリングの本格的な普及がいよいよ始まる

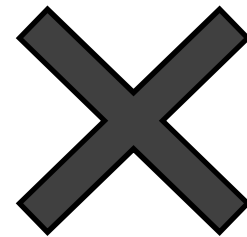
より高いレベルのSR(株主対応)活動の普及が加速
(当社収益機会の拡大)



高いシナジーを有する2本のドライバーで成長を加速

コア業務の強化 (IR・SRコンサルティング)

- ✓総合的な株主対応業務の提案を強化
(大型案件の受託)
- ✓証券代行事業を起点とする一気通貫での
株主対応業務の提案を加速
- ✓営業体制の強化(収益機会損失の防止)



事業領域の拡大 (証券代行事業の開始)

- ✓全く新しい証券代行サービスの提供
①迅速、②高度できめ細かい、③低価格
- ✓全上場企業から受託可能
SRコンサルティングの主要顧客層でない
時価総額1,000億円未満企業もターゲット

顧客数及び顧客単価双方の増加を目指す



証券代行業業の状況

- 証券代行業業については、40年振りの新規参入会社として第3四半期での受託開始に向けて万全な準備を進めている。
- 複数の上場企業について、受託開始に向けての具体的な作業内容や引き継ぎの詰めを行う段階に入るとともに、証券代行業務の委託先決定のためのコンペ参加の依頼を受けている。
- 第3四半期ではいよいよ受託開始を公に開示するとともに、大型案件ならびに全国規模での新規受託獲得に向け全社一丸となって取り組んでいる。



Ⅲ. 業績予想 及び 株主還元



2013年3月期 業績予想

証券代行事業における契約金額は受託先企業の株主数の規模により大きく異なるため、参入初年度の現時点では売上高について合理的な見通しを立てることが困難と考えております。

2013年3月期の業績予想につきましては、今後予想が可能となりました段階で速やかに公表いたします。

* 2013年3月期末をもって、のれん償却(年額85百万円)が終了

当社はMBOに伴うのれん代を2009/3期より毎年85百万円償却を行っております。

なお、本償却は2013/3期末をもって終了となります。そのため、2014/3期からは他の条件が同一と仮定した場合、

営業費用が前期比85百万円減となるため、同額の利益押し上げ効果が見込まれます。



株主還元方針

- 前期までは期末配当のみを実施しておりましたが、当期は業績が順調に推移していることから、**第2四半期末配当22.5円**(基準日:9月30日)を実施します。
- 当期の期末配当については、年間の配当性向として**35%(米国水準)以上**を目途としていることから、今後の業績に応じて、積極的な株主配分を目指します。

(参考)1株あたり期末配当金の推移

	第2四半期末	期末	年間
2013年3月期 (予定)	22.5円	22.5円	45円
2012年3月期 (実績)	-	45円	45円
2011年3月期 (実績)	-	30円	30円

Your Capital Market Intelligence

IR Japan



株主と企業を結ぶコンサルティング・パートナー

Your Capital Market Intelligenceとは、IR Japanが発行企業、投資家の皆様の資本市場でのリスク回避や多種多様なニーズへの対応をコアビジネスとし、独自のIntelligence(高度な情報を駆使して解決する能力)をフル活用し、持続的な成長を加速させることを示すコンセプトです。